

追検査

令和五年度 学力検査問題

国語

（九時二十五分～十時十五分）
（五十時間）

受検番号

第

番

注 意

1 解答用紙について

- (1) 解答用紙は一枚で、問題用紙にはさんであります。
- (2) 係の先生の指示に従って、所定の欄二か所に受検番号を書きなさい。
- (3) 答えはすべて解答用紙のきめられたところに、はっきりと書きなさい。
- (4) 解答用紙は切りはなしてはいけません。
- (5) 解答用紙の※印は集計のためのもので、解答には関係ありません。

2 問題用紙について

- (1) 表紙の所定の欄に受検番号を書きなさい。
- (2) 問題は全部で五問あり、表紙を除いて十四ページです。

○ 印刷のはっきりしないところは、手をあげて係の先生に聞きなさい。

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(26点)

靖成やすなりは、大相撲の巡業で、力士の髻まげを結う床山とこやまの仕事をする床芝とこしばと出会う。腕も氣立てもいい床芝に憧れた靖成は、床山見習いとして北垣部屋きたがきに所属する。研修当初こそ順調だった靖成だが、徐々じょじょに床芝からの指導が減っていく。北垣部屋でも、同じ部屋に所属する力士の松岡まつおかから髻まげを結う手際てぎわが悪いことで日々当たられる。ある日、靖成は松岡に突き飛ばされ、床芝からもらった櫛くしの齒が折れてしまう。靖成は部屋を飛び出し、駅に着くと床芝に泣きながら電話をかける。

およそ三十分後、床芝はやって来た。

「すみません。わざわざ来ていただいたて。」

床芝は怒らなかった。ただ、「よほどのことがあったんだろ。」と軽く目を伏せた。たぶん、逃げ出そうとしていたことはバレているのだろう。ごまかすのはやめて、靖成はこれまでのいきさつを洗いざらい打ち明けた。また涙がこみ上げそうになって、途中で何度も言葉に詰まった。床芝は黙って聞いていたが、靖成の話が終わると、

「で、どうしたいんだ？ お前は。」と静かに尋ねた。

「……どうしたい、って。」

そう聞かれて初めて、自分が何も考えていなかったことに気づく。

「もし辞めるつもりなら、俺は反対しない。その兄弟子※あにでしはやりすぎだと思うし、こういうのは最終的に前が決めることだからな。だけど。」

床芝はそこで一度、言葉を切った。

「お前、いつだったか言ってなかったか？ 若関※わかぜきが優しくなったのは俺のおかげだ、思いが伝わったからあの人は変わったんだって。お前はどんなだ？ 誰かを変えられるほどの仕事が、できているのか？」

「そ、それは。」

できているか、と聞かれたら、できていなかった。だけど毎日怒鳴られていたら、仕事に見切りをつけたくなるだろう。

「そりゃ、やる気なくすのもわかるけど。」

靖成の考えを見透かしたかのように、床芝①がため息をついた。

「俺は若関を支えるつもりでずっと、髻を結ってきた。たとえきつく当たられてもな。だけど俺が一度も腹を立てなかったなんて、お前本気で思ってるのか？」

え、と息を呑む。あるとき靖成の瞳に映ったのは、どこまでも優しく、真面目な床芝だった。その床芝が若関に怒りを覚える姿など、想像できなかった。

「ふざけんな、昇進が早かったからって調子に乗るんじゃないやねえ、って何度も思ったよ。今のお前みたいに、逃げ出そうとしたこともあった。それなのになんで辞めなかったか、理由がわかるか？」
わからない。

「正解を言うとな、裏方の中でも床山が、力士に一番近い存在だからだ。俺たちは行司※ぎょうじや呼出よかだしと違って、土俵には上がらない。だけど唯一、力士と直じかに接する仕事だろ？」

「ああ、はい。」

言われてみればその通りだが、正直まだピンと来ていない。そんな靖成を諭すように、床芝はじつと目を見て続けた。

「だんだん体がでかくなってるなとか、こんなにたくさんかすり傷ができるまで稽古したんだとか、今緊張してるんだとか……すぐそばで鬘を結ってたら、わかるんだ。こいつらは懸命に、この世界で生きてるって。若関なんか、まさにそうだった。何より、俺は絶対強くなるんだっていう闘志を、ばしばし感じた。」

松岡はどうだったかなと思いつき出したが、できなかった。そこまで松岡に注意を向けたことは、一度もなかった。

床芝は相変わらず静かな、だけどいたって真剣な眼差しを、靖成に向けていた。

「若関のそういう姿を見ると、不満ばっかり垂れてる自分がだんだん情けなくなってきた……せめて俺も、こいつと同じくらい必死でやないと、って思ったんだよ。」

靖成も、床芝から目を逸らすことができなかった。逸らしてはいけないと、頭の中で声がした。

「……床芝さん。」

次の言葉を発しようとする、唇が震えた。それでも息を深く吸い込み、はっきりと言い切った。

「俺、部屋に戻ります。」

床芝は無表情で頷くと、百円玉を二枚寄越した。

「だったら早く帰れ。切符、これだけあれば足りるだろ？」

それから「ほら。」と、何かを差し出した。見ると、鬘結いのにきに使う櫛だった。いくぶんか使われていたものようだ。

「それ、大事なものですよね？　なんで俺に。」

「櫛、折れて使えないんだろ？　戻っても仕事にならねえから、黙って受け取れ。予備の櫛は、今後ちゃんと用意しておけばいいから。」

無理やり櫛を押し付けてくる床芝の指を見て、はっとした。彼の指はたくましく、それでいて爪が短く切り揃えられていた。以前、巡業で見せてもらったときと同じ、職人の指だった。

一方、靖成の指は簡単に折れてしまいそうなくらい細くて、爪もずいぶん伸びていた。指の太さは仕方がないとはいえ、俺はこんな状態で鬘を結っていたのかと、愕然とした。

床芝さん、ともう一度呼びかけると、^②できるだけ深く頭を下げた。

「ありがとうございます。今度はちゃんと、大事にします。」

もらった櫛を慎重にしようと、地下鉄の切符売り場へと急いだ。

玄関を開けたら、部屋全体が静まり返っていた。おそらくみな、二階の大部屋で昼寝もしているのだろう。靖成は二階には上がらず、真っ先に稽古場に向かった。上がり座敷に足を踏み入れ、隅に置かれた棚の引き出しを開ける。そこから爪切りを取り出し、左親指の爪に刃を押し当てた。指先に軽く力を込めると、ぱちん、と爪の欠片が弾け飛んだ。ぱちん、ぱちん、と残りの爪も切りながら、鉄砲の音みたいだ、と思う。兄弟子たちはいつもこんな音をたてて、柱に手のひらを打ち付けている。でも松岡は違う。彼はもつと速くて鋭い音をたてて、柱に向かっていく。その一心不乱な様子でさえも恐ろしくて、余計に彼を避けていた。

爪をすべて切り終えて大部屋に向かうと、ちょうど昼寝が終わったところらしく、兄弟子たちは布団を片付けていた。その中に松岡もいたが、頭がひどい有様だった。襟足の毛が何本も飛び出ているし、きっちり結っていないせいか、髻が浮いている。今すぐ直してやりたい。

「あのっ、松岡さん。」

声をかけると、松岡はうつとうしうに顔をしかめた。

「てっきり逃げだしたのかと思ったら、帰ってきたのかよ。いったい何の用だ。」

ここで怯^{ひる}んではいけない。靖成はぐつと齒を食いしばり、頭を下げた。

「お願いします、もういつぺん、髷を結わせてください！」

「すぐさま」……はあ？」と不機嫌そうな声が返ってくる。それでも構うものかと、もう一度「お願いします！」と繰り返す。

「俺が力量不足なせいで、いつも時間取らせてしまつて申し訳ありません。でも俺、ちゃんときれいな……松岡さんに似合うような髷を結いたいんです。だから、お願いします！」

松岡はしばらく黙っていたが、やがて聞こえるか聞こえないかぐらいの声で、ぼそつと呟^{つぶや}いた。「そこまで言うなら、やってみろよ。」

兄弟子たちが買い出しに行つたため、大部屋には靖成と松岡だけが残された。松岡は腕を組んでふんぞり返っていたが、その右の上腕には、いくつもの擦り傷があつた。その上の、肩にはミミズ腫れのような痕があるし、左肘のあたりには、大きな青あざがある。きつと稽古や本場所のできたものなのだろう。こんなわかりやすい箇所にくれた傷なのに、今まで気にも留めていなかった。

靖成は大きく息を吐くと、手の甲を目の前にかざした。爪を切つたばかりのその手は、まだ全然頼りない。それでも、少しは床山の手らしくなつたような気がする。

「もし何か気になることがあつたら言つてください。すぐ直しますんで。」

そう声をかけ、床芝から新たにもらつた櫛で、髪を梳^すいていく。慣れない櫛はまだ靖成の手に馴^な染^じんでいないし、松岡の髪も毛先が絡^かまつていて梳^とかしくい。それでも靖成はいつもより丁寧^なに、手を動かし続けた。松岡が途中で口を挟むことはなかったが、最後にひと言だけ、目も合わさずに言つた。

「お前がやつた方が、まだマシだな。」

翌日から靖成は、髷を結う練習をさせてほしいと、松岡に何度も頭を下げるようになった。稽古後ではなく自由時間に頼むものだから、嫌な顔をされたが、大抵は付き合ってくれた。床芝にお願^{※おんがかり}いし、朝霧部屋での研修のときも、髷を結う回数を増やしてもらつた。床芝も細かく助言してくれるようになり、そのおかげで以前よりずっと、髷をうまく結えるようになった。

床芝の指導が突然淡泊になつたのは、彼が忙しかつたからではなく、自分の熱意が足りなかったからだつたのではないか。

とうとう誰にも文句を言われなくなつた頃、唐突にそんなことを思った。だが床芝本人には決して、確かめなかつた。そんなこと気にしてないでもっと練習しろ。そう小突かれるのが、目に見えていたからだ。

(鈴村ふみ著「大銀杏がひらくまで」による。一部省略がある。)

(注) ※兄弟子……自分よりもさきに同じ師についた人。

※若関……床芝が髷を担当している力士。若い頃は怒りっぽく態度も悪かつた。

※行司や呼出……いずれも相撲に関わる仕事をする人のこと。

※鉄砲……相撲の稽古の一つで、脇を固めて左右の手で交互に、あるいは両手で柱を突くこと。

※朝霧部屋……床芝が所属する相撲部屋。

問1 ① 床芝がため息をついた。とありますが、このときの床芝の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 目の前にいる靖成の姿にかつて逃げ出そうとした自分自身の姿を重ねて同情するとともに、自分の仕事に対する姿勢や思いを靖成が理解していなかったことにがっかりしている。
- イ これまで自分が指導してきた靖成が仕事を辞めようとしていることを悲しく思うとともに、これからどうしたいのかをはっきり答えられない靖成の様子にいらだちを感じている。
- ウ 靖成を突き飛ばして櫛の歯まで折ってしまった松岡を腹立たしく思うとともに、櫛がなくなり床山の仕事ができなくなった靖成がこれからどうしていけばいいのか心配している。
- エ ちよっとした力士との衝突で簡単に仕事を辞めようとしている靖成にうんざりするとともに、靖成と松岡のいきさつを知らずに助けられなかったことを申し訳なく思っている。

問2 ② できるだけ深く頭を下げた。とありますが、このときの靖成の心情を、次のようにまとめました。空欄にあてはまる内容を、二十字以上、三十字以内で書きなさい。(6点)

床芝が自分に向き合ってくれたことに感謝するとともに、

30 と決意している。

20

問3 ③ 大抵は付き合ってくれた。とありますが、松岡が髻を結う練習に付き合ってくれるようになった理由を、次のようにまとめました。空欄にあてはまる内容を、力量、熱意の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。(7点)

松岡に、

25

35

から。

問4 床芝本人には決して、確かめなかった。とありますが、その理由を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 過去のことを振り返るよりも、床山としてさらなる技量の向上に一心不乱に努めることこそが床芝が望んでいることであると考えているから。

イ 床芝の指導が淡泊になった理由を聞くと、かつて部屋から逃げ出そうとしたことを再び話題にされてまたあきられてしまうのではと恐れたから。

ウ やつと誰にも文句を言われなくなったのに、今さら床芝に指導が突然淡泊になった理由を聞くことで、また小突かれるようになるのは嫌だから。

エ 床芝は過去の話をすることが好きではないので、あえて理由を確かめずに、淡々と床山の仕事を続けることの方が自分のためになると考えたから。

問5 本文の内容や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中から二つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

ア 本文は、靖成が床芝と話をして部屋に戻ることを決意する場面、松岡に頼んで鬻を結わせてもらう場面、その翌日以降の場面というように、時間の流れに沿って展開している。

イ 「お前、いつだったか言ってなかったか？ 若関が優しくなったのは俺のおかげだ、思いが伝わったからあの人は変わったんだって。」のように本文中では倒置が用いられている。

ウ 「無表情で頷くと、百円玉を二枚寄越した。」や「無理やり櫛を押し付けてくる」という表現によって、無理にでも靖成の気持ちを変えようとする床芝の強引な人柄を印象づけている。

エ 爪を切る「ぱちん、ぱちん」という音と、兄弟子たちが柱に手のひらを打ち付ける鉄砲の音を重ね合わせることによって、この場面がより印象的なものになっている。

オ 作品中の登場人物ではない第三者の客観的な視点に立つ語り手によって物語が展開されており、靖成や床芝など登場人物の心情は、会話文だけで表現されている。

2 次の各問いに答えなさい。(24点)

問1 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。(各2点)

- (1) 何事も傍観せずに関わりをもつ。
- (2) 思いがけず議論が沸騰する。
- (3) 自宅の一部を利用して飲食店を営む。
- (4) 彼は、連続優勝というカイキヨを成し遂げた。
- (5) 炊きあがったご飯をよくムらす。

問2 次の「部」や「よう」と同じ意味(用法)であるものを、あとのア～エの文の「部」から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

清掃用具の破損について先生に報告しようと思う。

- ア 満月の夜空はまるで昼のような明るさだ。
イ 彼は彼女のことを本当に知らないようだ。
ウ 名前がわからないのでは探しようがない。
エ 明日の朝は忙しいので今晩は早く寝よう。

問3 次のア～オの熟語について、同じ構成(成り立ち)になっているものを二つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 私物 イ 真実 ウ 搭乗 エ 雷鳴 オ 修業

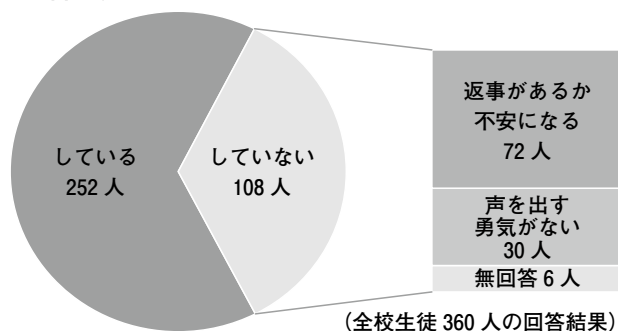
問4 中学生のAさんたちは、学校の目標である『明るくあいさつをします』を推進するため、一月の全校集会で発表を行うことになりました。発表に使う三種類の『スライドの内容』と、話し合いの様子を読んで、あとの問いに答えなさい。

【スライドの内容】

お知らせ

来月の2月1日から7日まで
『●●中学校あいさつ週間』
を実施します！

(事前の全校アンケートの結果)
Q. 普段声を出してあいさつをしていますか？



あいさつ推進メンバー募集！

日時：2月1日～7日の登校時間(土曜・日曜をのぞく)
場所：正門前
内容：登校する生徒や、地域の方に対してあいさつをする。

《備考》
※「1日だけ出られる」という人も大歓迎です！
※服装は制服をお願いします。

話し合いの様子

Aさん「では、発表の構成を決めたいと思います。発表時間を考えて、使うスライドはこの三種類に絞りました。発表の内容やスライドの順番について、何か意見はありますか。」

Bさん「今回の発表の目的は、あいさつ週間をきっかけとして、学校内に明るいあいさつを増やすことと、多くの人が声を出してあいさつできるようになることなので、最初にあいさつ週間の日程を伝えるのがよいと思います。」

Cさん「なるほど。ただ、なぜあいさつ週間を実施することにしたかという説明がないと、聞いている人たちは、やや唐突に感じるのではないでしょうか。」

Dさん「私も、まずは目標である『明るいあいさつの響く学校』の趣旨を、口頭で伝えるのがよいと思います。その後、現状と課題を説明し、それに対する取り組みを紹介したうえで、協力を呼びかけるのが順番として自然ではないでしょうか。」

Bさん「確かにそうですね。では最初に事前アンケートへの協力に対するお礼を述べたうえで、そこから先はDさんの意見を採用してはいかがでしょうか。」

Eさん「それがよいと思います。さらに、スライドには書かれていませんが、事前アンケートで『声を出してあいさつすることは大事だと思う』と回答した人の割合が全体の九十五%をこえていることも、発表内であわせて伝えるのはどうでしょうか。」

Cさん「Eさんの提案に賛成です。そういった結果を伝えることで、今まで声を出せなかった人たちにも安心感が生まれ、

をもつて声を出す人が出てくるかもしれません。」

Aさん「では、スライドの順番はそのようにし、Eさんの提案も採用しましょう。それ以外で何か意見はありますか。」

～話し合いが続く～

- (1) Aさんたちは全校集会での発表時に、スライドをどのような順で提示することにしましたか。

話し合いの様子

をふまえて、二番目に使用されるスライドとして最も適切なものを、

【スライドの内容】のA～ウの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- (2) 空欄

 にあてはまる言葉を、【スライドの内容】の中から探し、二字で書き抜き

なさい。(2点)

- (3) Aさんたちは全校集会のあと、保護者や地域の方たちにも参加を呼びかけるため、案内状を作ることにしました。次のA～エの中から、この案内状の文面に使用される時候の挨拶として最も適切なものを一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

A 梅の果実が美しく色づく頃となりました。

イ 冬の寒さが一段と厳しい頃となりました。

ウ 過ぎ行く春が惜しまれる頃となりました。

エ 紅葉の美しさに心が弾む頃となりました。

ここで、贈与というものを最も広い意味で捉えておきたい。つまり、誰から誰へと贈与されたと明確に定義したいケースもまた、贈与のうちに含めておく。共同体の一部のメンバーが獲得したモノが、とりたてて「贈与した」という自覚をもたずに共同体に直接に寄託され、その上で、そのモノを必要とするメンバーに分配され、与えられるようなケース、つまるところこれは、「能力に応じて貢献し、必要に応じて与えられる」という原理なのだが、これもまた、贈与の最も原初的な形態に含めておく。

贈与をこのように広く捉えたとき、狩猟採集民を含む、あらゆる人間社会には贈与の行動が見出される。いや、むしろ次のように言うべきである。人類(ホモ・サピエンス)の最も原初的な生活の形態をそのまま残していると考えられる遊動的な狩猟採集民——彼らは中に十家族ほどを含む五十人規模のバンドで移動している——こそ、今述べた原理に近接した贈与の、きわめて忠実な実践者である。たとえば、ある男が、大型の動物を仕留めた①しよう。彼がそれを自分のモノだとか、自分の家族のモノだとか主張することは、絶対にありえない。もしそんなことを主張したら、彼は、バンドから間違いなく追い出されるだろう。獲物は、バンドの全員に分配される。その獲物を捕ってきた者の取り分が大きくなる、などということもない。

人間社会のこの特質を、動物社会学のコンテキストの中に置いてみたらどうか。実のところ、人間以外の動物種では、ほとんど全くと言ってよいほど、贈与や分配のような行動は認められない。この場合、贈与・分配の対象として念頭に置かれているモノは、もちろん、食物である。食物を、他の個体に贈与したり、分配したりする動物は、ほとんどないのだ。そんなことはない、と反論する者もいるだろう。親鳥は雛鳥に給餌するではないか、と。だが、動物に見られる「分配」らしき行動は、鳥の給餌行動がその典型であるように、基本的には、直接の血縁者を相手にしたときや、生殖に関与する場面に限られているのである。親鳥は、自分の子にしか給餌せず、たとえ自分の子であっても、自ら餌を獲得できるほどに成長したならば、親は絶対に食物を与えたりはしない。生殖から独立した局面で、あるいは直接の血縁者が相手ではないケースで、食物を分配する動物種は、ほとんどない。

今、われわれは繰り返し「ほとんど」という留保を付けている。そう、厳密に言えば、遺伝的に最も人間に近い二つの現存種、つまりチンパンジーとボノボには、きわめて萌芽的※^{ほうが}なものではあるが、食物を分配したり、互酬的に贈与したりする行動が認められるのだ。とはいえ、彼らは、人間から見ると、互酬的な贈与を通じて価値ある食物を得ることが、非常に「苦手」だ②と見える。ひとつの実験を紹介しておこう。チンパンジーにリングを持たせておき、実験者である人間が、ブドウとの交換を「提案」する。チンパンジーは、リングかブドウかどちらか一方を選ばなければならないような状況では、圧倒的にブドウを好むことがあらかじめ確認されている(およそ八割のチンパンジーがブドウを※[※]選好する)。しかし、人間が自分のブドウと、チンパンジーのもつリングとの交換を提案しても、実際に交換が成立することはほとんどない(交換の成功率は二%程度)。交換する食物の選好の落差を大きくしていけば、交換が成立する確率は高まっていく。ブドウ(人間)とキウウリ(チンパンジー)の交換であれば、五割程度の確率で実際に成り立つし、ブドウとニンジンとの交換は、九十%以上の確率で実現する。ともかく、チンパンジーは、明らかに得る食物の価値が失う食物の価値より大きいことが分かっている、必ずしも交換に応じない。人間から見ると、チンパンジーは、交換を十分に活用できていないように見える。

だが、繰り返せば、それでも、野生のチンパンジーとボノボは——頻繁ではないが——、子でもなければ、兄弟姉妹でもない他個体に対して食物を分配することがある。もともとチンパンジーの贈与・分配は、人間から見ると、かなり消極的である。つまり、他の個体に自発的・積極的に食物を与えているというより、その食物を他の個体が取ることが容認している、と記述した方が実態に近い。それゆえ、人によっては、チンパンジーが肉を分かち合う行動は、単に、「黙認された盗み」に過ぎない、とする。しかし、^③このような評価は事態の本質を逸している。他個体の手元にあった物を、平和裡^りに取ることができるのは、その他個体の容認に「贈与への指向」が含意されているからだ。

つまり、チンパンジーの贈与が人間の目からはかなり消極的に見えても、なおチンパンジーは、萌芽的な贈与の概念をもっている、と解釈することができる。彼らは、奪われるということが何を意味しているかをもちろん知っているが、それだけではなく、与えることとはどういうことなのかを理解している。このことを印象的に示す事実を、[※]フランス・ドウ・ヴァールは紹介している。アカゲザルには、いかなる意味でも分配行動は見られない。そのアカゲザルに、彼らの好物であるリングを与えようとするとうなるだろうか。実験者である人間は、リングを贈与しようとしている。しかし、アカゲザルは、好意でリングを差し出す人間を脅すようににらみつけ、うなり声を出しながら、その手からリングを奪う。アカゲザルは、他個体の手元にある食べ物を得る方法としてこれしか知らないからだ。つまり、アカゲザルは、贈与(される)という概念をもたず、^④彼らの選択肢の中に贈与に向かう行動がまったく入っていないのだ。もちろん、チンパンジーの場合は違う。チンパンジーは、同じ状況で、リラックスした雰囲気^で、飼育係の手を咬^かむこともなく、リングを得るだろう。

何のために、こうした事実を紹介し、検討しているのか。それは、贈与の起原を探究することの意義を明確にするためである。確認すれば、人間以外の動物種では、食物を贈与する行動はほとんど見られない。ということは、贈与がいかにして可能か、と問うことは、人間の人間たる条件を解明することでもある、ということだ。進化の系統樹の上で最も人間(ホモ・サピエンス)に近い、大型類人猿の二種だけが、きわめて消極的ではあるが贈与への指向性をもった行動をとることがある、という事実は、問いの意義に関するこうした解釈を、さらに正当化することになるだろう。^⑤「贈与」は、動物との関連の中で、人間(ホモ・サピエンス)を特徴づけている何かなのだ。遺伝子の構成において人間(ホモ・サピエンス)にごく近い種だけが、わずかに贈与の兆候を示しているということが、そのことを強く示唆している。

(大澤真幸著『クリティーク社会学 経済の起原』による。一部省略がある。)

(注) ※バンド……一団、一群。

※コンテキスト……文脈。

※萌芽^{ほうが}……さざし。

※互酬……物品などを互いに提供しあうこと。

※選好……複数の選択肢の中から好みに応じてあるものを選ぶこと。

※平和裡^りに……平和な状態で。

※フランス・ドウ・ヴァール……生物学者。

問4 ④ 彼らの選択肢の中に贈与に向かう行動がまったく入っていないとありますが、筆者はアカ

ゲザルとチンパンジーにはどのような違いがあると述べていますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（4点）

ア アカゲザルは、他の個体が持つ物の価値が分らないのでとにかく奪うことしか考えないが、チンパンジーは、相手が持つ物の価値の高低によつて奪うかどうかを判断できる。

イアカデザルは、他の個体の持つ物が自分に贈与されるとは考えないので奪うことしかできないが、チンパンジーは、萌芽的ほうがな贈与の概念があるため平和裡りに取ることが出来る。

ウ アカデザルは、他の個体の持つ物がどうしたら自分に贈与されるか分からないので奪うことしかできないが、チンパンジーは、贈与してくれるように相手に行動を促すことができる。

工アカデザルは、他の個体が持つ物が自分に贈与されない場合には力づくで奪うことしか考えないが、チンパンジーは、リラックスした雰囲気を作り出して相手から盗むことができる。

問5 ⑤「贈与」は、動物との関連の中で、人間(ホモ・サピエンス)を特徴づけている何かなのだ。

とありますが、なぜ「贈与」が「人間（ホモ・サピエンス）」を特徴づけている何かであるといえるのですか。次の空欄にあてはまる内容を、**人間社会**、**消極的**の二つの言葉を使って、四十字以上、五十字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（7点）

[illegible]

4

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（……の左側は口語訳です。）（12点）

上手は、名を頼み、達者に隠されて、わろきところを知らず。下手は、もとより工夫なければ、上手な能の役者芸達者であることにうぬほれてよくない

わろきところをも知らねば、よきところのたまたまあるをもわきまへず。されば上手も下手も、

① 互ひに人に尋ぬべし。 さりながら能と工夫を窮めたらんは、これを知るべし。

いかなるをかしき為手なりとも、よきところありと見ば、上手もこれをまなぶべし。これ
下手な ※して 極めた役者なら

第一の手だてなり。もしよきところを見たりとも、われより下手をば似すまじきと思ふ情識あらば、
強情な気持ち

その心に繫縛せられて、わがわろきところをも、いかさま知るまじきなり。これすなはち、
束縛 おそらくは知ることができないだろう

窮めぬ心なるべし。また下手も、上手のわろきところ、もし見えば、上手だにもわろきところあり。
能と工夫を極めない心 上手な役者でさえも

いはんや初心のわれなれば、さこそわろきところ多かるらめと思ひて、これを恐れて、人にも
まして ②

尋ね、工夫をいたさば、いよいよ稽古になりて、能ははやく上がるべし。もしさはなくて、
上達するであらう

われは、あれ体にわろきところをばすまじきものと、慢心あらば、わがよきところをも、
あんなふう ③

真実知らぬ為手なるべし。よきところを知らねば、わろきところをもよしと思ふなり。さるほどに
実際には

年に行けども、能は上がらぬなり。これすなはち、下手の心なり。 ④
年を重ねても

（『風姿花伝』による。）

（注）※為手……能の役者。

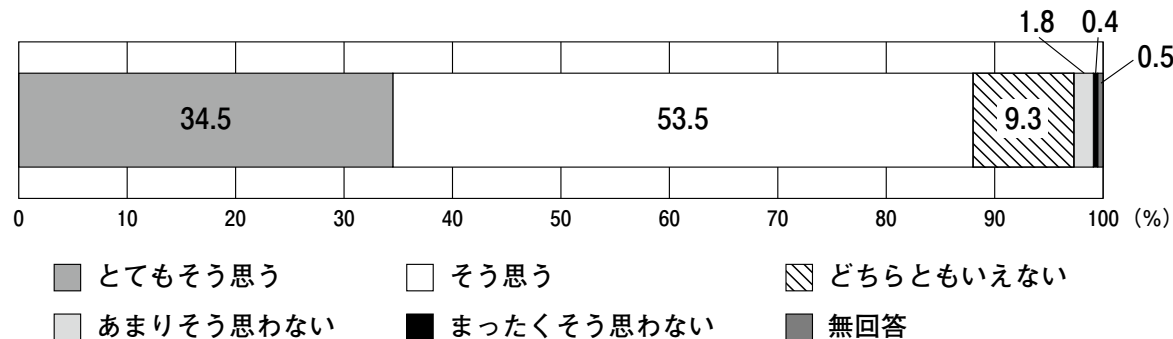
問1 ① 互^{たが}ひに人^{ひと}に尋^{たづ}ぬべし とありますが、この部分を「現代仮名遣い」に直し、すべてひらがなで書きなさい。(3点)

次の資料は、農林水産省が二十歳以上を対象に行った調査の結果をまとめたものです。

国語の授業で、この資料から読み取ったことをもとに「日本の食文化を継承していくために大切なこと」について、一人一人が自分の考えを文章にまとめることにしました。あとの（注意）に従って、あなたの考えを書きなさい。（12点）

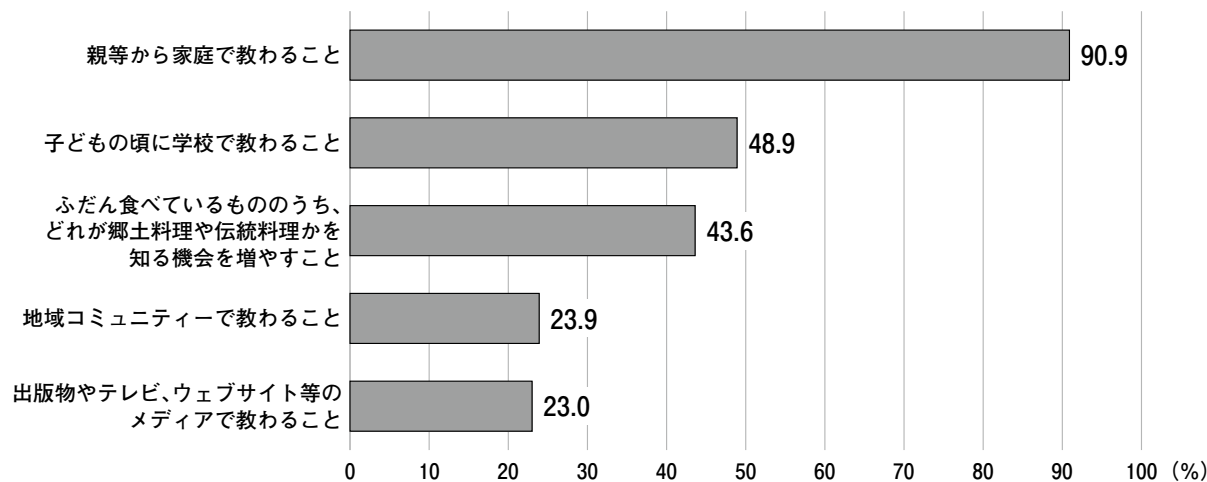
資料

① （日本の）郷土料理や伝統料理、食べ方・作法を受け継ぐことは大切だと思いますか。



② （日本の）郷土料理や伝統料理、食べ方・作法を受け継ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか。

※複数回答



農林水産省「食育に関する意識調査報告書」令和4年3月 より作成

（注意）

(1) 二段落構成とし、第一段落では、あなたが資料から読み取った内容を、第二段落では、第一段落の内容に関連させて、自分の体験(見たこと聞いたことなども含む)をふまえてあなたの考えを書くこと。

(2) 文章は、十一行以上、十三行以内で書くこと。

(3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

(4) 題名・氏名は書かないで、一行目から本文を書くこと。

（以上で問題は終わりです。）

